



失敗がすごくイヤなんだ！



A. 失敗も大切なんだよ。

「失敗」ってあまりいい響きの言葉じゃないね。

なんかもう取り戻せなくなりそうだし、次に成功するかどうか解らないし、もう1回やってみようという気持ちにすらなれないかもしれない。

でも「失敗」できる、っていうことは「挑戦」できる、ということと同じ意味なんだ。

なんにもアクションを起こさないとしたなら「成功」も「失敗」もあり得ないよね。

「失敗」してしまった、ということは、なにかに挑戦できた証拠なんだよ。

新しいことにチャレンジするからこそ「成功したよ」や「失敗しちゃった」があるんだ。

と言ってもやみくもに挑戦してもダメではあるね。

きちんと計画を立てて、[見通し](#)を持って挑戦しなければいけないよ。

ここで計画を立てたり見通す力に不安があるなら「[手伝って](#)」と誰かに頼ればいいんだ。

自分で計画を立てるのに困ったら「助けて」と人に頼ってもいい。

見通しが持てないようだったら「どうなるんだろう」と聞いてもいいんだ。

自分が安心して取り組めるように、[環境を整備](#)してもらおうだね。

[サポートする人](#)は、実はここまで[待てなくっちゃ](#)いけないよ。

ちょっと困っているかも、と思ったらすぐに助け船を出す人がいるけれど、支援は待てなければいけないんだ。

出来る・出来ない、ひとりでやりたい・手伝ってほしい、は本人の[自己決定](#)だから、その決定や判断を奪ってはいけないんだね。

低年齢だったりすると、ほとんどのことが初めての体験だったりするので「失敗」してしまう確率も上がってしまうよ。

そういうときはサポートする人がさりげなく手伝ってあげなくてはいけないね。

あくまで「さりげなく」で、ことさらやってあげている、ではいけないよ。

前転ができないときに、そっと腰を押してあげる。

できれば押されていることすら解らないほうがいいね。

本人にも気付かれないぐらい「手伝う」んだ。

ここに[サポートや支援、と呼ばれるもの](#)の本質があるよ。

どこまでも本人自身がやっていくことが本筋だけど、できないときもある。

そんなときに、さりげなくちょっとだけ「手伝う」ことで本人の自信につなげていくんだ。

そのときにサポートする人の言葉遣いは、気を付けなくっちゃいけないことのひとつだよ。
不用意な声掛けをすることで、その子どもの気持ちを傷付けているかもしれない。
「今日も参加できませんでした」や「次は上手くやろうね」という言葉かけは、一見正しく見えるけど
けっこう危なっかしい声掛けかもしれないよ。

「今日も参加できませんでした」は、本人からしてみれば「やっぱりできないんだ」につながってしまふことが多いよ。
参加できない・しない理由はあるのに、それを無視した声掛けに相当するから。
「今日は違ったんだね」や「これは思ったことじゃなかったんだね」という寄り添う言葉のほうが必要だろうね。

「次は上手くやろうね」も「やっぱり自分は上手くできないんだ」という気持ちにつながりやすいよ。
誰にでもできないことはあるのに、たまたま今回の[プログラム](#)が “できないこと” だっただけかもしれないのに。
「がんばってトライしたよね」と言ったほうがやってみようという気持ちにつながるよね。

挑戦してみよう、という気持ちは “ やってみる ” から始まるんだ。
“ やってみる ” ⇒ “ できるようになる ” ⇒ “ 挑戦したい ” という順番だね。
“ 挑戦する ” ⇒ “ やる ” ⇒ “ できるようになる ” ではないよ。

前転をやってみて、さりげなく押されながらもできたときには、サポートする人が「上手くできているよ」と、きちんと評価をする。
ひとりでできるようになったら「がんばってトライしているね」と、挑戦している気持ちを共有して一緒に喜ぶ。
そしていつでも前転ができるようになると嬉しいし楽しいからもっと挑戦してみたい、という気持ちになるんだよ。

もし「失敗」してしまったときも、気持ちを取り戻してあげることも必要だよ。
「失敗」が「失敗」のまま済んでしまうとそれが苦手になってしまう。
もう一度「成功」することで「挑戦」したい気持ちを取り戻してもらおうんだ。

失敗を減らしていくコツは「苦手を作らない」ということだと思うんだ。
全部ひとりできなくてもいいから、手伝ってもらいながら苦手と思えるものを減らしていくんだ。
68点ぐらいでOK、と思えると気持ちがラクかもしれないね。

《MENU》

[《人のマネはいけないことなの？》](#)

[《自己肯定感って？》](#)

2023-11-20 掲載